

案山子(かかし)



三宅島は野鳥の生息密度が高く、別名「バードアイランド」と呼ばれています。中でも、国の天然記念物に指定されている「アカコッコ」は、絶滅危惧種に指定されている日本固有のツグミの仲間で、三宅島の自然保護のシンボルともなっています。

一方で、口ばしが太く、骨太のがっちりとしたカラスも生息しています。調べてみると「ハシブトガラス」という種類でした。本校の駐車場や畑によく現れては、鋭い眼光を光らせています。駐車場に停めてある車のルーフが、ちょうどよい休憩場所となっています。時として、用を足して去っていくのが、悩みの種です。大きな声で追い払うのですが、また、舞い戻ってきます。挙句に私が喉を からす といった具合です。



ある日、2年生が畑で何やら集まっている光景を目にしました。校長室の窓から眺めていると、植えた大根がカラスにやられないように、案山子(かかし)を作っていました。ハシブトガラスから大根を守るために、子供たちは、風船を膨らませたり、スズランテープで囲ったりと、アイデアを出し合います。



なにせ、相手は、しぶとく、賢いからです。

そんな様子を見ながら、ふと、故郷の田園を思い出しました。あの名曲と共に。

元気であるか 街には慣れたか
友達出来たか
寂しくないか お金はあるか
今度いつ帰る



さだまさしさんの『案山子』です。郷愁に駆られた瞬間でした。昔は離れて暮らす家族を「案ずる」など、人の心の琴線に触れる曲が数多くありました。綴られた歌詞とさだまさしさんの透き通る歌声から伝わる描写の美しさを感じます。現代では、このような牧歌的な歌が表舞台から姿を消してしまっているのが寂しい限りです。無事に2年生の大根が育ちますように。私も、校長室の窓から、その成長を眺めています。

続いて、5年生の教室です。学級会「6年生を送る会の出し物を決めよう」の話合いをしていました。6年生に感謝の気持ちを伝えたい。楽しい会にしたい。それぞれの思いから、アイデアを出し合っています。「劇」「クイズ」「ドリフの大爆笑的な」「動画でメッセージ」「合唱」など、次々と意見が出てきます。自分の考えの理由もしっかりと述べています。さすが、高学年!!「理由」で意見を比べ合う話合いができる



のは、これまでの積み重ねがあるからでしょう。担任の「研究魂 YOSHIKAWA」は、話合いにじっと耳を傾け、余計な口出しは一切していません。これもまた、素晴らしい!! つつい、話合いに口をはさみたくなるものですが、子供たちに任せています。時として、話を整理する言葉掛けはしていましたが、ほとんど手助けはしていません。「6年生に感謝の気持ちを伝えるのに、楽しすぎてもいけないのではないか」「6年間の思い出を振り返ってもらうのも、大切なことではないか」「全校が楽しい気持ちになるような出し物にしたい」など。6年生や全校のことを考え、「案ずる」様子が見られました。相手の立場になって、集団決定ができる。その姿から、もうすぐ6年生になる自覚のようなものも感じました。本校では、「自分(たち)で考えて行動する」児童の育成を目指しています。学級活動をとおして、集団決定の経験を計画的に積み上げています。

「成すことによって学ぶ!!」 欠かし てはならない、特別活動の基本理念を大切にしています。